

【タロスオーバー】

異なる分野の物事を組み合わせることで新しい物事を作り出すこと

トリオ・バンディット

サクソフォンとピアノによるクラシックコンサート

2019年 9月23日 (月・祝) 開演 16:00

HITOMI ホール 

一般：3000円 学生：2000円 全席自由 (当日500円増)

主催：プチフォレ・ミュージック 後援：名古屋音楽大学

お問い合わせ：petteforetmusic-contact@yahoo.co.jp 090-6610-4697 (小森)

チケットお取り扱い：ドルチェ楽器 名古屋店 052-218-6377 /

植村楽器 052-722-1682

トリオ・バンディット クロスオーバー

サクソフォンとピアノによるクラシック・コンサート

ヤコブTV: May This Bliss Never End (テナーサクソ&ピアノ&エレクトロニクスOUND)

: The Body of Your Dreams (ピアノ&エレクトロニクスOUND)

: The Garden of Love (ソプラノサクソ&エレクトロニクスOUND)

ムソルグスキー(中堀海都:編曲): トリオのための「展覧会の絵」(トリオ・バンディット委嘱作品)

コンセプト

「異なる分野の物事を組み合わせる新しい物事を作り出すこと」、それがクロスオーバーの定義だ。今回のトリオ・バンディットの公演では、「異なる分野の物事」が様々な掛け合わされている。

1. ヤコブTV×ムソルグスキー: 電子音響を伴う映像作品×音を視ようとする音楽作品

2. 原曲×編曲: ヤコブTV×中堀海都

3. ピアノ×サクソフォン: 鍵盤楽器×管楽器

これらの組み合わせを通して、私たちが目指すのは「新しい物事を作り出すこと」だ。では、何をもってして「新しい物事」と言えるのだろうか？ここで「新しい」の語源を探してみる。「新しい」の語源は「あらたし」であり、平安初期頃より音変化によって「あらたし」が「あたらし」となり、その後「あたらしい」になったとのこと。また、当時は「あらたし」は、「惜しい」「もったいない」との意味でも使われていたとのことだ。答えは出た。これから皆さんが聴く・視る・体感する音世界を、「もう終わってしまうなんて『惜しい！』」や、「名古屋での1公演だけなんて『もったいない！』」、そう感じてくださったなら、私たちが目指す「新しい物事を作り出す」ことが出来たと思っ

ムソルグスキー:「展覧会の絵」編曲:中堀海都

1870年31歳のムソルグスキーは、画家・建築家であるハルトマンと出会う。この出会いこそ、「展覧会の絵」を生み出すことになる運命の出会いであった。互いの芸術に惹かれあう二人…しかし、ムソルグスキーと出会ったわずか3年後、ハルトマンは39歳の若さで世を去る。その死の知らせはムソルグスキーを大いに打ちのめした。ハルトマンの死を悼んで行われた展覧会、そこを訪れたムソルグスキーはハルトマンの残した10の絵を元に、わずか3週間でピアノ曲「展覧会の絵」を書き上げたのだ。しかし、この曲はムソルグスキーの生前は演奏されることはなかった。当時のピアニストたちに見向きもされなかったこの作品の真価を白日の下にさらしたのは、モーリス・ラヴェルによるオーケストラ編曲である。以来、数多くの作曲家がこの作品を編曲するとともに、今ではピアニストにとって欠かせないレパートリーとなった。トリオ・バンディットは「展覧会の絵」の編曲を、ニューヨーク在住の作曲家の中堀海都に委嘱した。中堀の作品の特徴は、その静謐な美しさにある。ゆったりと漂うように動く音型は、儂い響きに満ちているが、そこには滾るような熱量が内包されている。私たちは中堀とともに、新たな世界観をもった「展覧会の絵」を創造する。それが、私たちがこの作品を演奏する理由だ。(文:伊藤憲孝)

トリオ・バンディット

サクソフォンとピアノによるTrio-Bandit(トリオ・バンディット)は、2014年2月に結成された。日頃、聴く機会の少ない現代の作品を中心に、毎年コンセプトをもってコンサートを開催している。現在、様々なコンサートが開催されており、聴衆は多種多様な選択肢の中からコンサートを聴くことができる。しかし、クラシックというジャンルに関しては、なかなか出向く機会を逃していることも少なくない。そのコンサートの特徴は、音楽とともに映像・音響・電子音や自然音を取り入れたり、照明と音楽と空間の融合を意識して創られている。サクソフォンやピアノのオリジナル曲から、編曲された曲、編成もソロ、デュオ、トリオと多種多様なサクソフォンとピアノの可能性を表現・追求している。

コンサート歴 「音楽ヴィジョン×空間メタモルフォーゼ」2014年2月 「サウンドトラックとともにスタイリッシュな音楽を」2014年7月 「パリの革命児」2016年3月 「日本とパリの革命児」2017年3月 「ロシアの英雄」2018年2月

小森 伸一 Sax



岐阜市出身。1996年名古屋音楽大学卒業。2001年フランスのセルジー・ポントワーズ国立音楽院卒業。2000年パリのレオポルド・ベラン・コンクール優勝。アリオン・サクソフォン・カルテットのメンバーとして、2006年から東海地方を中心に全国各地で公演。2014年にCD「Arion's Harp」(FLOP-21027)をリリース。2017年には初のソロアルバム「FUMPABUMPA」(FLOP-21056)を発表し好評を博す。また2008年より、かかみがはらウインドオーケストラの指揮者としても活動している。名古屋音楽大学、金城学院大学、同朋高校の各非常勤講師。植村楽器、ドルチェミュージックアカデミーの各講師。

伊藤 憲孝 Piano



アムステルダム、ベルリンで研鑽を積み、イタリアでの18th Citta di Valentino International Competitionで第1位を受賞。国内主要都市をはじめ、アメリカ、欧州、アジアなど世界各国で演奏を行なっている。ローマではメディチ荘にて「酒井健治ピアノ作品集全曲演奏会」を行い、その活動はThe New York Timesでも取り上げられている。スロヴァキア国立歌劇場管弦楽団との共演。室内楽奏者として、NHK交響楽団、サイトウ・キネン・オーケストラとメンバーの共演を行なっている。録音は、国内でディスク・クラシカより2枚のCDをリリース。欧州では、ベルリンのKreuzberg RecordよりCDがリリースされている。福山平成大学准教授エリザベト音楽大学大学院非常勤講師。

福光 恒星 Sax



山口県岩国市出身 名古屋音楽大学卒業
フランス・サン・モール国立地方音楽院を卒業
また、室内楽のクラスをベルリオーズ音楽院にて受講し、審査員全員一致の一等賞を獲得。ヨーロッパ・ピカルディ・コンクール1等賞(フランス・1999年)現在は、県内外において、他の楽器や、声楽などと共演し活動の幅を広げている。「おもしろクラシック館」を定期的に開催しクラシックの楽しさをトークやゲスト演奏者を迎え紹介している音響や映像をクラシック音楽と表現する現代作品の演奏、紹介に取り組んでいる。「山口サクソフレンズ」主宰、mono-sax 四重奏団メンバー。



HITOMIホール

名古屋市中区葵三丁目21番19号
メニコンANNEX 5F

千種駅地下改札口方面、5番出口より徒歩4分
東山線:千種駅5番出口より、徒歩約4分
桜通線:車道駅4番出口すぐ左折、徒歩で約7分

